

(1) 開会

(2) 校長挨拶 学校運営協議会では積極的なご意見を伺い、学校運営に反映していきたい。

(3) 協議

① 平成30年度学校教育自己診断アンケートの検討項目と回答について

(教頭より報告・説明)

保護者アンケートについて

否定的な回答が多いというよりは「わからない」という回答が多いため結果的に肯定的回答が高くなると考えた。学校での様々な教育活動を知ってもらうための取り組みが十分でない判断し、対応策として、緊急メールの利用についても検討したい。また、一部の質問については、回答しやすい質問になるよう来年度に向け、検討する。

(委員)

保護者が質問内容を理解できないことがあるのではないかと。

保護者の立場としてどう答えてよいかわからない質問がある。給食など、自分の子どもが段階食でない場合、試食会に参加している保護者はわかるが、そうでなければわからない。

活動内容も、連絡帳のみではわからないことも多い。広報等、情報発信の工夫をお願いしたい。

教員アンケートについて

(委員)

いじめに対する項目で教員が「わからない」というのはどういうことか。

(部主事) 小学部、中学部はいじめの事案はなく、部が変わるとわからないので、答え方がわからず、「わからない」と回答したと考えられる。

学校としての現状や取り組みを知ることが大切である。

(委員) いじめに関しては、事案について校内での伝達経路を明確にする必要がある。

(校長) 学校として、マニュアルがあり、教員間で定期的に確認している。

本校では、今年度マニュアルを活用せねばならないような事案がなかった。事案がなかったからよいのではなく、体制の確認はしっかりと行う。

(委員) 個別の教育支援計画の活用に関しては、学校として活用が足りないのか。卒業後の活用はどのようにしているか。

(担当首席) 卒業時、保護者に返却し、保護者より卒業後の進路先に提出して卒業後の支援につなげてもらうように伝えている。

② 平成30年度学校経営計画のまとめについて

(校長より報告・説明)

今年度の目標はおおむね達成できた。

・食物アレルギーに関して、学校教育自己診断アンケートに項目を追加することができなかった。

・防災体制の確立では、個人用持ち出し袋の提出率が34.6%から47.1%(1月末)に上昇した

ものの十分とは言えない。来年度引き続き、個人用持ち出し袋保管の周知徹底により提出率50%を目標にする。常備薬預かりについても引き続き行う。

- ・公開授業週間の実施については、来年度は保護者の他学部参観、地域の学校の先生方への授業公開を行う。

- ・個別の教育支援計画については市教委に協力を依頼し、保護者に了解のもと入学前在籍校から情報をとる体制作りを進める。

- ・「働き方改革」の観点では、会議・研修が多いという意見が多く、来年度に向け精査中である。

- ・ボランティア活動については、今年度もシルバーアドバイザーによるニュースポーツなど新たな活用を始めた。十分に発信し知ってもらう必要がある。

(委員)

個別の教育支援計画は地域の学校からの提出はどうなっているのか。

(校長)

9月に、教頭が市教委を訪問し、地域の学校へ個別の支援計画の提出に協力してもらうようお願いした。高等部では、今年度より出願の日に保護者に承諾をもらい、提出のない場合は在籍中学校に個別の教育支援計画の引き継ぎを依頼することになった。

(委員)

プライベートなものなので、保護者から学校への提出が望ましい。また、引継ぎの承認を保護者から得ておくことが大事である。

(校長)

もちろん、保護者からの提出が前提であり、どうしても提出のない場合に学校間で情報を引き継げるように承諾を頂くもの。

(委員)

居住地校の交流に関しては、兄弟の関係等で難しい場合もある。交流を希望しない場合については、丁寧に対応してほしい。

③ 平成31年度学校経営計画について

(校長より報告・説明)

- ・今年度の重点項目として、医療的ケアに関して、国の検討会議を受けて本校の役割分担を明確にし、校内体制づくりを行う。

- ・新学習指導要領への移行に向け各部で教育課程の検討を行う。

- ・スパイダーや視線入力装置といった自立活動機器を用いた実践を行う。

- ・防災対策の強化に関しては、まちこみメールの登録者数を増やし活用するとともに、安否確認等、保護者からの発信も含めた体制を整えたい。

- ・地域への情報発信として、校内に配布していた支援便り「Support」をホームページに掲載し、今ある取り組みを工夫して保護者や地域に発信していく。

(委員)

視線入力装置についてどのように活用するのか。

(校長)

教育庁から、全肢体不自由校の小学部・中学部・高等部の三学部それぞれに導入されるもの。先進的に取り組む学校を参考にしながら、活用方法について検討する。

(委員)

・肢体不自由の生徒対象に手指の巧緻動作に対応するだけでなく、知的障がいの書字障がいの生徒に対し、目線の動きからわかることがあるのではないかと興味深い。

実践の中から、わかったことを教えてほしい。

・平成 31 年度学校経営計画を承認する。

(校長)

平成 31 年度学校経営計画は、教員間からも意見を聞き、3 月末までに確定していく

(4) 連絡・報告

① 今年度の進路の現状とまとめについて

(担当首席より報告)

今年度の高等部 3 年生の進路先の報告

課題としてグループホーム、入所施設利用について困難な現状

関係機関との早期からの連携が大切

(委員)

卒業後年数を経て、サービスが受けられなかったり、仕事を辞めて困っているケースを地域で聞く。学校としてはどう対応しているか。

(担当首席)

知っている教員がいる場合は支援できるが、いない場合は、地域の相談支援事業所や、関係の支援機関につなぎ対応している。そのためにも在学中から、就業・生活支援センターや、相談支援事業所とつなぎ、支援の切れ目のないように取り組んでいる。

②地域支援活動の報告

リーディングスタッフ活動報告

(5) その他

各委員より挨拶

(6) 閉会